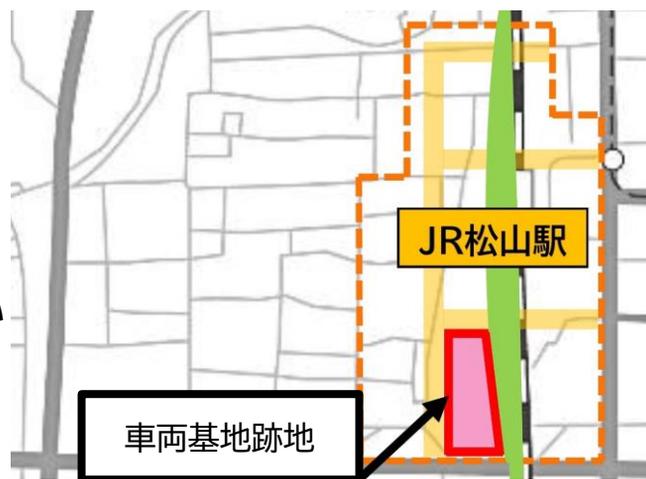


松山市車両基地跡地広域交流拠点施設基本計画(案)の概要

1 これまでの経緯

松山市は、JR松山駅周辺の土地区画整理事業を進めてきました。

車両基地跡地は、松山市が取得し、駅に近接する立地をいかして、これまで以上に多くの人々が行き来交流できるにぎわい創出拠点の整備を目指しています。



2 整備方針

車両基地跡地では、「5,000席以上のアリーナ」及びサブアリーナ等を中心とした施設を整備し、プロスポーツの利用及びコンサートなど興行の場として、また、さまざまなスポーツに加え、文化や学びに触れる機会を提供することで交流を促し、にぎわいのある施設を目指します。

新施設の整備方針



- ①スポーツ、エンターテインメントをはじめとするにぎわい交流機能等、新たな魅力の創造によって、都心地域の活性化を図る
- ②市民が日常的に利用・交流可能な機能を導入し、日常のにぎわい創出を図る
- ③広域交通結節点の立地をいかして、来街者・交流人口の増加が期待できる機能を選定し、周辺と連携した効果的な施設づくり、エリア開発を目指す

また、スポーツやエンターテインメントイベントの開催だけでなく、災害時には地域の防災拠点としても機能する施設にします。



▲引用:物資調達・輸送について 内閣府(防災担当) 令和6年能登半島地震を踏まえた 災害対応検討ワーキンググループ(第4回) 資料

▲引用:いしかわ総合スポーツセンター 1.5次避難所「令和6年版防災白書」

松山市車両基地跡地広域交流拠点施設基本計画(案)の概要

3 事業方針

いまある「松山らしさ」を“発信し”、新たな「松山らしさ」を“創り出す”

市民が改めて誇りや愛着を感じ、観光客や来街者がおもてなしの心を感じられるエリアとなるきっかけのコンテンツを生み出し、まちの魅力づくり、文化振興に貢献します。

みんなが“つながり”、いつも楽しいアリーナを演出する

人々を惹きつけるようなコンテンツを、地域のさまざまな団体等が一体となって提供するアリーナを目指し、「行けば何かやっている」、「行きたくなる体験がある」と思える事業に取り組み、いつ行っても楽しいアリーナを演出します。

どんなときでも“安心できる”居場所となる

試合やイベントの有無によらず、日常的に立ち寄ることができ、また、地震等の災害時には大空間を利用できるなど、アリーナの特徴をいかした安全・安心な空間を提供します。



▲ コンサートでの利用イメージ



▲ バスケットボールでの利用イメージ

4 施設計画

施設構成及び機能・規模については、Bプレミア基準に沿って、5,000席以上の客席数を有するものとします。

また、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、環境負荷低減等、公共の集客施設に求められる基本的機能を備えるとともに時代のニーズに合わせられる施設を目指します。

5 事業化へ向けて

施設規模などをサウンディング型市場調査などを踏まえて今後検討していく中で、適正な整備費になるよう努めます。また、持続性のある施設運営を目指し、より詳細な検討及び調査を進めていきます。